

投 稿 要 領

「教育実践学研究」投稿要領

「教育実践学研究」編集委員会

会員の研究成果発表の機会を保障するという趣旨で、教育実践学会紀要「教育実践学研究」を刊行します。投稿要領は下記の通りです。

記

1. 論文の性格

論文原稿は、未発表のものに限ります。(但し、口頭発表、学会等の予稿集、学位論文等は、加筆・再構成して投稿できる。その場合はその関連性を本文中に述べること)。

2. 論文の種類

本誌は、教育理論・実践に関する研究誌であり、原著論文をはじめ、下記の論文などを掲載します。

(1) 原著論文

教育理論・実践に関係ある独創的な研究成果の報告、あるいは会員の参考となるような有効な新しいデータをまとめたもの。

(2) 資料論文

実践報告、試験的な研究の報告、特定分野の現状などを広い角度から記録、文献等を引用して記述したもの。

(3) 研究ノート論文

研究速報、新しい発想、提言、問題提起、事例報告など研究上、記録にとどめておく価値があると認められるものや、既発表の論文に対するコメントで、研究上記録にとどめておく価値があると認められるもの。

(4) 総説論文

特定の主題に関する一連の研究およびその周辺領域の発展を著者の見解に従って総括的、かつ体系的に報告したもの。

(5) 展望

特定分野の進歩や将来の見通しなどを、広い視野から記述したもの、例えば他学会の展望など。

(6) 実践報告

教育現場での具体的な実践例の報告で、新たな教材開発や工夫、指導法の開発、先進的な試みなど学会員に広く有益な情報となる内容。

(7) その他(書評・記事など)

いずれも原則として未発表のものに限ります。

3. 論文に投稿できる対象

投稿者は本学会会員に限ります。(共同研究の場合も同じ。)ただし、依頼原稿の場合はその限りではない。

4. 投稿期日

原稿は随時受け付けます。但し、発行期日との関係で、年1回の締切日を設けます。

原稿締切日 12月30日

発行 翌年 3月

5. 枚数

原著論文、資料論文、研究ノート論文、総説論文は刷り上がり10ページ(1ページ1440

字相当) 以内, 展望, 実践報告, その他は刷り上がり 8 ページ以内とする。超過分費用は著者負担とする。

6. 原稿の作り方と投稿手続き

原稿執筆の形式は「教育実践学研究」執筆要項によります。

投稿は電子メール, 郵便等による方法の二つの方法があります。

電子メールで投稿する場合は, 本学会指定の原稿送付状と原稿(図・表などを含む)を添付ファイルとして編集委員会宛にメールで送信して下さい。原稿はオリジナル原稿と, 著者, 所属機関, 謝辞等それらがわかる部分をマスキングした査読用のファイルの2種類を作成して送って下さい。ファイル形式は, Microsoft Word または PDF ファイル形式で容量 10MB 以下にして下さい。大容量の原図ファイル等がある場合は, 受理後に他の記録媒体等により提出して下さい。

原稿を郵便等で投稿する場合は, 本学会指定の原稿送付状と原稿(A4版)を3部送って下さい。原稿1部はオリジナル原稿とし, あと2部は著者, 所属機関, 謝辞等それらがわかる部分をマスキングした査読用原稿にして下さい。併せて, 電子ファイルが保存された CD-R 等の記録媒体も送付して下さい。なお, 原稿の控えを必ず著者の手元に残して下さい。原稿は原則として返却しません。

7. 投稿原稿の扱い

投稿された原稿は, 編集委員会内規に従い編集委員会が選定・依頼した査読者の審査を経て, 掲載の可否を決定します。

8. 原稿送付先

投稿の際は, 原稿送付状と原稿および査読用原稿を以下に送って下さい。

① メールの場合

電子メールアドレス: aiba&yochisha.keio.ac.jp(&を@に変えて下さい)

② 郵送の場合

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 2-35-1 慶應義塾幼稚舎
教育実践学会編集委員会 相場博明宛

9. 校正

完全原稿を提出してもらいます。その後の校正は編集委員会が行うこともあります。

10. 費用の負担

図表や写真などの印刷について, 特に費用を要するものは, 執筆者の負担とすることがあります。

11. 論文の著作権の取り扱い

本学会に投稿される論文等の著作権は, 本学会に最終原稿が投稿された時点から原則として本学会に帰属します。投稿される方は, この規程に従うことに同意したものと見なしますのでご了承下さい。なお, 執筆にあたっては他人の著作権の侵害, 名誉毀損, その他の問題を生じないように十分に配慮して下さい。

2021年4月30日より, 「教育実践学研究」は, J-STAGE に登録されています。

「教育実践学研究」執筆要項

1. 原稿の冒頭には、表題、著者名、所属機関および所在地、抄録（400字以内）、およびキーワード（3～6語）を日英両語で入れる。なお、抄録の英文は省略することも可能とする。
2. 図表は原稿に組み入れて作成する。その際は図表のキャプションも本文中に入れること。図表など画像データ（最高画質が望ましい）は受理後に改めて提出する。
3. （註）は、文章中右上に上付き四分の一角の数字 1) 2)・・・で表し、引用文献とは別に論文末にまとめる。
4. 引用文献は、原則として APA スタイルに準拠し、次のように記載する。
文中の場合 森山・山口（2018）は・・・文末の場合 （森山・山口，2018）。
著者が3人以上の場合は、第一著者の姓の後に「ら」や「et.al」などをつける。論文末の引用文献には全員の氏名を書く（但し、教科書のように執筆者が多い場合は省略できる）。
論文末の引用文献リストは、アルファベット順に記載する。

（学術雑誌の場合）

- ・日本語文献の場合：年号のカッコは全角、年号は半角 MS 明朝
森山賢一・伊藤健（2013）「問題解決における地域学習の授業の開発」, 教育実践学研究, 第 17 号, 43-46.
- ・欧文の文献の場合：すべて半角 Century
Christian, T. G. & Mary, A. S. (2016) Relationships among positive emotions, coping, resilience and mental health. *Stress and Health*, **32**, 145–156.

（書籍の場合）

森山賢一編著（2013）『教育課程編成論』学文社，1–192.

（オンラインから引用した場合）

文部科学省（2018）「学校における働き方改革について」, Retrieved from http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/hatarakikata/index.htm

5. 本文は「である」調とし、常用漢字、現代仮名づかいにより、数字は算用数字を使用する。読点は「、」句点は「。」を用い横書きとする。
6. 原稿は1ページを 40字 36行、一段組みで作成する。
フォント数：メインタイトル（太文字）・サブタイトル 12 p
著者名・機関所属 11 p
英文タイトル・キーワード・英文キーワード：10.5 p
抄録・1.はじめに・結果・考察・まとめ（太文字）：11 p
本文：10.5 p
7. 掲載決定の通知が届いたら。著者はメールまたは郵送で、デジタルデータを編集委員会宛に送ること。掲載決定後の大幅な変更は認められない。
8. 二重投稿を禁止する。2つの雑誌に酷似した内容が掲載された場合は二重投稿の疑いをかけられるので十分注意をする。